

地下閉鎖空間における救助活動に資する資機材等の開発・活用検証テーマ	
背景・意義等	<p>消防庁では、近年、道路陥没事案など、地下閉鎖空間における被害が発生していることを踏まえ、救助技術の高度化を図るため「令和 7 年度 救助技術の高度化等検討会」を開催している。</p> <p>この検討会において、地下閉鎖空間での救助活動では「状況把握が困難」「無線通信機器の使用が困難」「二次災害危険が大きい」などの特性により、地上での活動とは異なる課題・ニーズがあることがとして取り上げられた。</p> <p>これらの課題・ニーズに対応するため、地下閉鎖空間における救助活動に資する資機材等の開発・活用検証が必要である。</p>
最終的な完成品のイメージ	<p><研究開発の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔から要救助者を検索する技術の開発 ・地下内部構造を立体データ化し、地盤の空洞や劣化箇所、崩落の前兆を早期検出する技術や、ガス分布を把握し、活動リスクを評価する技術の開発 ・隊員の位置を把握し、迷失を防止する技術や、隊員の心拍・体温等の変化を把握し、体調不良を早期に発見する技術の開発 ・隊員視点の映像をリアルタイムで共有するなど、地下空間の隊員と円滑なコミュニケーションを実現し、指揮判断を支援する技術の開発
備考	<p><参考資料></p> <p>令和 7 年度救助技術の高度化等検討会「地下閉鎖空間における救助技術の高度化」</p> <p>第 3 回資料 2-1 現場活動の課題とニーズ</p> <p>https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/items/post-179/03/shiryou2-1.pdf</p>